

## 平成28年度高等学校基礎学力テスト(仮称)試行調査に関するアンケート 結果概要

### 【アンケートについて】

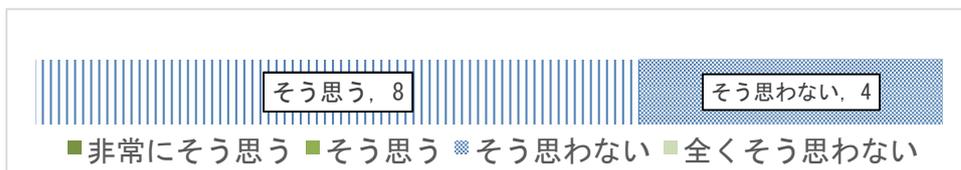
- 調査対象：12校（平成28年度高等学校基礎学力テスト（仮称）試行調査実践研究校）
- 回答者：管理職等、試行調査の全体を把握している教員（当該職員のみで回答が難しい場合には担当者にも確認の上回答するよう依頼）
- 実施時期：平成29年3月1日（水）～13日（月）
- ※自由記述回答の集計に当たっては、事務局で同趣旨の回答をまとめたり編集したりしたものがある。

### 【結果概要】

#### 1. 試行調査について

##### (1) 実施時期について

##### ①実施時期は適当でしたか。



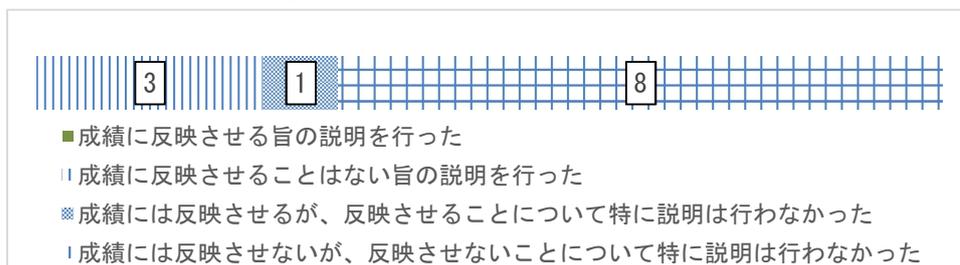
##### ②①で「そう思わない」又は「全く思わない」と回答した方にお尋ねします。適当と思われる時期は何月頃でしょうか。

- ・10月～11月
- ・11月下旬
- ・12月
- ・12月中旬から1月初旬（冬季休業中を含む）
- ・高校入試等で授業時間の確保に苦慮する3学期は避けてほしい

#### 2. 本体調査（国語・数学・英語）について

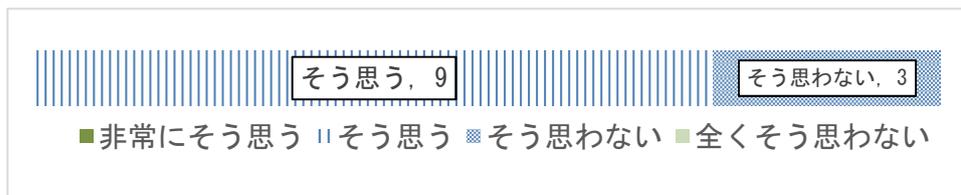
##### (1) 試行テストの成績の取り扱いについて

##### ①今回の試行テストの結果の取扱いについて、生徒にどのように伝えましたか。



##### (2) テスト時間について

##### ①今回の試行調査では、テスト時間について1教科50分を基本として実施しましたが、基礎テストが導入された場合も同じテスト時間が適当だと考えますか。



②①で「思わない」又は「全く思わない」と回答した方にお尋ねします。50分が適切ではない理由は何でしょうか。また、基礎テストを導入した場合のテスト時間について、何分程度の設定が望ましいと考えるかご記入願います。

**<思う>**

- ・ 50分とすること自体は賛成だが、生徒の中には開始25分程度で終了して退屈そうにしている者が少なからずいたため、出来る生徒にはより多くの問題が出題されるなどC B Tの特性を生かしたものとされることを望む
- ・ テスト45分、説明5分で合計50分とした方が、授業時間を変更せず対応できるので都合が良い

**<思わない>**

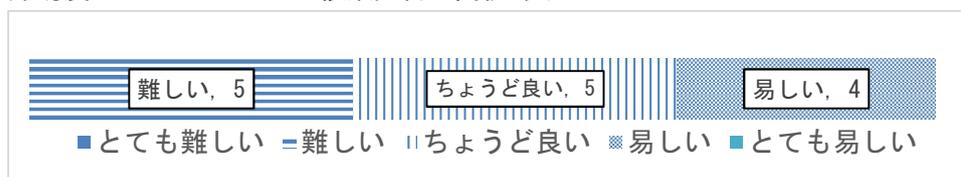
- ・ 多くの生徒が時間を持て余していた
- ・ 実施時間そのものは50分で良いが、説明・準備時間の確保を含めた時間設定を考える必要がある
- ・ 特にC B Tで実施する場合、書くことに要する時間はP B Tより短くて済む（漢字に悩む必要がない）ため、45分でも十分と思われる
- ・ P B TとC B Tの差（ディスプレイで視認できる範囲の狭さ、本文への書き込み、入力システムによる変換予測など）で、従来の「学力」とどれだけ一致するのか実感として把握できないため、時間と難易度の設定が適切かどうか自信が持てない

(3) 問題の内容・難易度等について

①今回の試行調査で使用した問題について、難易度や問題の分量はどうでしたか。

**【国語】**

難易度について ※複数回答の高校あり



**<難しい>**

- ・ 縦書きと横書きが混在しており読みにくいだけでなく、スクロールしながら文章を読むことにも生徒が戸惑っていた
- ・ 易しい問題の数が少ないように感じた
- ・ 調査時点までに指導していない項目がいくつか含まれていた
- ・ 結果が返ってきていないが、普段学習させているものとの比較

**<易しい>**

- ・ 時間を持て余すなど、生徒の様子を観察した限りではそう感じた

### <複数回答>

- ・ 問題によって差が見られた

### 問題の分量について



### <多い>

- ・ 「読み上げ問題」が50分に占める割合が多く、その後の問題を考えて解答を吟味するため時間が足りない生徒が見受けられた
- ・ 小問の数は適切だが、大問が多く、設問文を読むのに時間がかかる

## 【数学】

### 難易度について

※複数回答の高校あり



### <難しい>

- ・ まだ学習していない範囲が含まれていた
- ・ 数学Iの内容でも基礎レベルの問題が少なかった
- ・ 日常生活に結びつけた問題は、活用型の問題として思考力を測るには適切だったと感じるが、実測値や現実的な数値が与えられた問題は計算過程で数値が複雑になり、難易度が高いと感じた
- ・ 学科によっては2年生になってから全く学習しない生徒がいる

### <ちょうど良い>

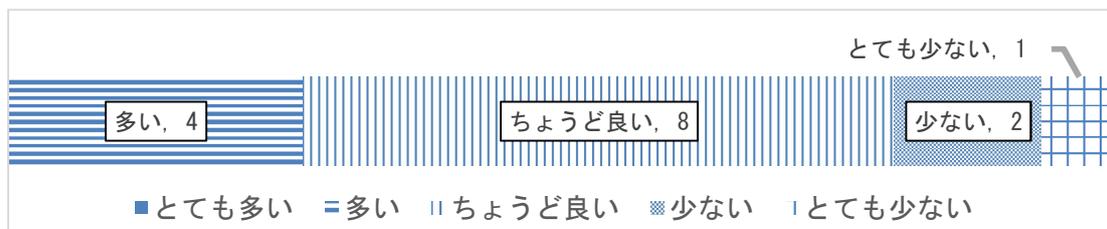
- ・ もう少し試行錯誤する問題があっても良い

### <複数回答>

- ・ 問題によって差が見られた

### 問題の分量について

※複数回答の高校あり



### <多い>

- ・ 文章が多く、読んで理解するのが困難

**<ちょうど良い>**

- ・ 分量は良いが、パソコンの操作に左右される
- ・ 多くの生徒が時間内に最後の問題にたどり着いていた

**<少ない>**

- ・ もう少し試行錯誤する問題があっても良い。ほとんどの生徒が時間を持て余していた

**<複数回答>**

- ・ 問題によって差が見られた

**【英語】**

難易度について

※複数回答の高校あり



**<とても難しい>**

- ・ 文章が長く、本校の生徒が慣れていない問題形式だったため、早々に諦めてしまう生徒が多かった。英語による指示のため、問題の意図が理解できない生徒もいた

**<難しい>**

- ・ 文章量が多く、リスニングテストも長かった
- ・ 2年生にとっても難しかったようだ

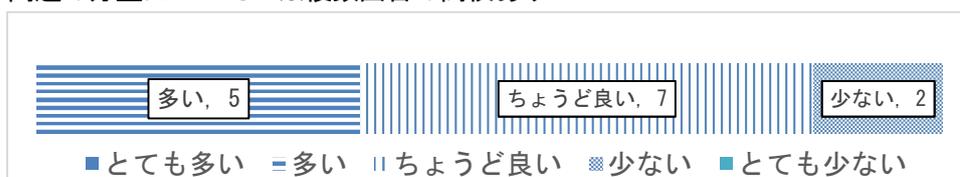
**<ちょうど良い>**

- ・ 基礎力を測るのにちょうど良い

**<複数回答>**

- ・ 問題によって差が見られた

問題の分量について ※複数回答の高校あり



**<多い>**

- ・ 2年生にとっても問題数が多かったようだ

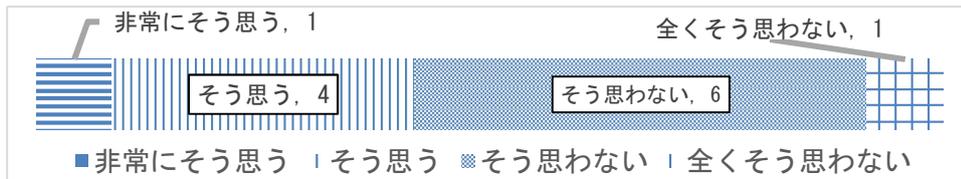
**<ちょうど良い>**

- ・ 基礎力を測るのにちょうど良い

**<複数回答>**

- ・ 問題によって差が見られた

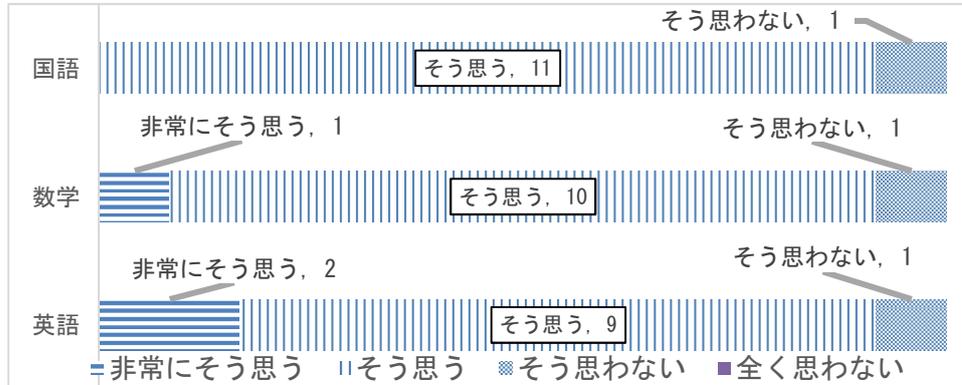
②今回の試行調査では、「基本レベル」「標準レベル」の2段階から選んで受検いただきましたが、基礎テストを導入した場合は、さらに多段階の問題を用意する必要があると考えますか。



③②で「非常にそう思う」「そう思う」を選んだ具体的な理由を教えてください。

- <非常にそう思う>**
- ・ 大学進学を希望する生徒以外は多様な進路を希望しており、様々な能力を測る必要がある
- <そう思う>**
- ・ 本校の生徒にはやや難しかった
  - ・ 試験時間中座っているだけになる生徒がいない方がよい
  - ・ 「基本」の定義が曖昧。「基本」という言葉からは、もっと易しいものを含んでいると感じる
  - ・ 各校がこの結果を授業改善に用いるならば、更に多段階の問題設定が必要
  - ・ 英語については、中学校段階の定着度を測る問題にバリエーションが必要
- <そう思わない>**
- ・ 最初から段階を選ぶなど複雑にするのではなく、受検者のレベルに合わせて途中から問題レベルが上下したり、問題数が増えるなどしてほしい

④問題の出題範囲は、国語は国語総合、数学は数学Ⅰ、英語はコミュニケーション英語Ⅰをそれぞれ上限として設定しましたが、この設定は妥当だと考えますか。



⑤④で「そう思わない」「全く思わない」を選んだ理由を教えてください。

- 【国語】**
- <そう思わない>**
- ・ 古典については第1学年で学んでいない文法事項等が含まれているため
- 【数学】**
- <そう思わない>**
- ・ 第1学年では、まだ習っていない単元があるため
- 【英語】**
- <そう思う>**
- ・ ある程度の学力を持つ生徒向けに「英語表現Ⅰ」を出題範囲にすることも検討してはどうか

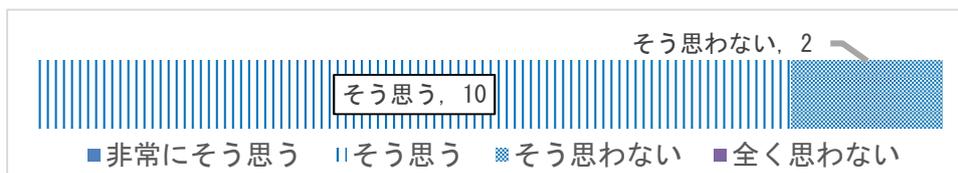
### <そう思わない>

- ・ 1年次に「コミュニケーション基礎」を履修する学校もあり、実施時期をいつにするかによる

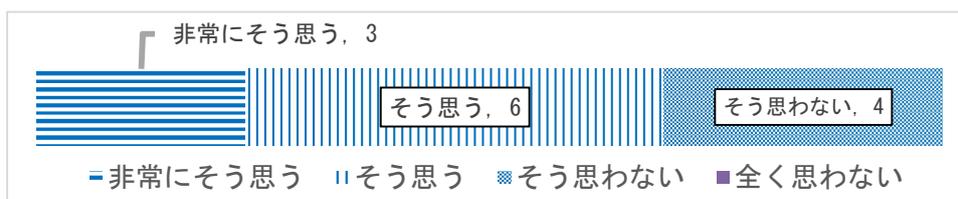
⑥問題内容について、「知識・技能」を中心として、「思考力・判断力・表現力」を問う問題がバランスよく出題されていたと思いますか。※複数回答の高校あり



⑦問題は複数の民間事業者が作成しましたが、作成する事業者によって同じレベルのセットであっても難易度や質にばらつきがあったと思いますか。



⑧今回出題された問題は、現場の先生方が指導改善に役立てる素材・きっかけになるとと思いますか。※複数回答の高校あり



⑨⑧で各選択肢を選んだ具体的な理由を教えてください。

### <非常にそう思う>

- ・ 問題を通して、「今後育成すべき力・求められている力とはどのようなものか」ということ、「それらの力をどのような形で問うべきか、評価すべきか」ということについての方向性を教員が知ることができ、それを目標設定や指導、評価に反映させる有効な手がかりとすることができる
- ・ 生徒に上記のような問題を受検させ、分析結果を示すことで、日々の学びの意義や目的を生徒に理解させたうえで、授業中の学習活動や課題に取り組みさせることができ、主体的・対話的で深い学びの実現につながる
- ・ 問題の問いかけ方は非常に参考になった
- ・ (英語について) 広告文や手紙文で実際使われるものに近いものを使用されており、そのような英語を読み、書き、話す指導をしなければならなかった
- ・ (数学について) 出題された問題は生徒の到達目標と考えられ、教員の指導の方向性もはっきりし授業計画等をより適切に行うことができる

### <そう思う>

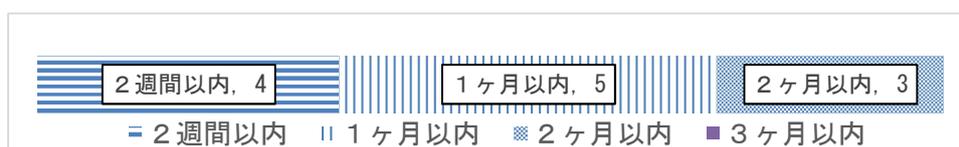
- ・ 良質な問題が多く、指導改善に役立てることが可能
- ・ 問題作成の参考になる
- ・ 新学習指導要領の趣旨を理解するためにも教員の意識の変化が必要

- ・ どのような分析結果が返却されるかによるが、生徒の「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の定着度の測定基準となり、教員が指導を振り返る際の材料となる
- ・ (国語について) これから必要とされる力がどのようなものか、「思考力・判断力・表現力」を問う問題がどのようなものかイメージがつかめた
- ・ (国語について) 古典と現代文のつながりなど、授業のヒントになりそうな設問があった
- ・ (数学について) 授業進度に余裕があれば、これらの素材を用いて自由に考えさせる時間を取ってもよい
- ・ (英語について) この種の問題をモデルとして、そのビジョンを想像し授業に生かしていける。事実発問にしても、直接的な解答を導くのではなく、2文以上を読みつないで解答させる読解力を養わせ、さらには推論発問、評価発問による脳の活性化につなげたい

### <そう思わない>

- ・ 基礎学力の定着に課題を抱える学校については、日々の学習内容に興味を持たせ、理解させること以上の指導まで進まない現状があり、今回出題された問題に対応する学力を定着させるまで到達できない
- ・ (英語について) 問題に慣れる対策をとることが結果に反映される可能性があり、学力そのものを測定する問題として適切か疑問
- ・ わかっていることの確認でしかなく、日頃、把握できていること以上のことをこのテストから得られると思えない
- ・ 文部科学省が理想とする学力のあり方や授業のあり方が、今回の問題からのみでは判断しづらい
- ・ 問題が簡単すぎるため、深い思考力が育たない。国語は短文であることもあって、奥深い心情表現や情景表現の妙を味わうことができないので、読解力は育たないと思う
- ・ 分析結果で明らかにされるのかも知れないが、今回の出題では、指導要領の「どの部分に準拠し、どのような力を見ようとしているのか」が明らかにされていないので、単に「出来たかどうか」レベルの振り返りに終わるのではないか
- ・ (国語について) 選択式が中心になった設問で「表現力」がどこまで測れるのか不明
- ・ 英語学習で求められている身に付けさせたい力を試す問題としては、それほど新しい内容・形式のものではない

⑩テスト実施から採点結果レポートの学校(生徒)への返却までの期間は、どのくらいが望ましいですか。



### <2週間以内>

- ・ 出来るだけ早いほうが良い

### <1ヶ月以内>

- ・ 実施時期にもよるが、年度末で授業がほとんどない時期よりも、授業に反映させたり生徒に十分説明できたりする時期に生徒にフィードバックしたい

### <2ヶ月以内>

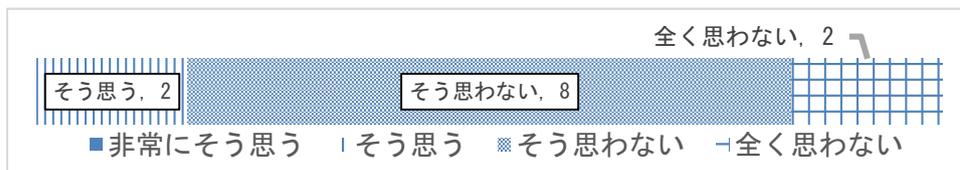
- ・ 生徒個人向けの分析表はその後の学習の指針になるもの、教員用分析資料はその後の指導に役立つものが良い

#### (4) CBTについて

① CBTを実施するにあたり、PCやネットワーク環境の事前確認は負担になりましたか。



② 今回の試行調査では、事前に実施事業者において事前確認を実施しましたが、今後、CBTを実施する際に、マニュアルがあれば、教職員で確認作業ができると思いますか。



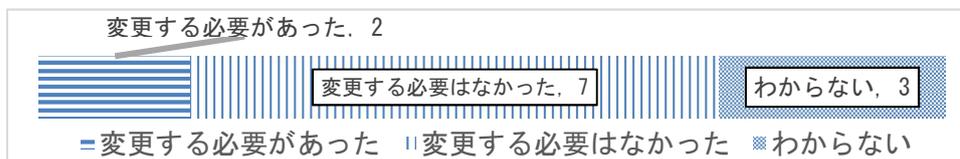
##### <そう思わない>

- ・ マニュアルがあれば教職員でも作業は可能かも知れないが、担当者に負担がかかる
- ・ 情報機器などに精通した教員がいない
- ・ 実施事業者が不在の時には情報科の教員が対応したが、情報科の教員がいなければ不安だった
- ・ 何かあった時に対応してもらいたい

##### <全く思わない>

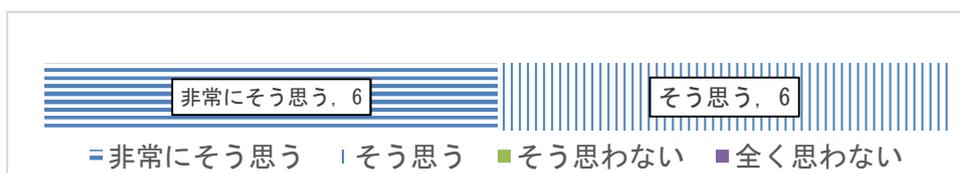
- ・ 学校で確認作業をやるには手間がかかりすぎる。タブレットが送られてきて、それを生徒に貸し出して問題を解かせ、タブレットごと回収する等、学校の手間を軽減しない限り、本テストは定着しないと思う
- ・ 専門の担当者に事前に確認してほしい

③ CBTを実施するにあたり、道府県教育委員会において、ネットワークのセキュリティの設定等を変更する必要がありましたか。



④ CBTを実施する際、パソコン教室の確保は負担になりましたか。

(今回、一部の学級に限定してCBTを実施した学校におかれては、全学級でCBTを実施したと仮定してお答えください。)



⑤④で「非常にそう思う」又は「そう思う」と回答した方にお尋ねします。パソコン教室の確保が負担になった理由はどのようなことでしょうか。

**<非常にそう思う>**

- ・ テストを行う日はパソコンを使う授業が行えず、調整が大変
- ・ パソコン教室を使用する通常の授業と連続している場合、生徒の入替えに手間取った
- ・ パソコンの設定の切替えが必要な場合があった
- ・ テストにするには机が狭かったため、新たに机を購入した

**<そう思う>**

- ・ CBTの試験時間が50分に定められており、パソコンの起動時間や説明の時間、回収作業の時間も考慮すると、CBTを実施する時間の前後に授業が入らない時間で設定する必要があった
- ・ 時間割を変えなければならない
- ・ パソコンの台数が限られており、一度に一クラスしか実施できない
- ・ 情報処理検定の直前期にもかかわらず、コンピュータ教室を使った授業ができなかった

⑥CBT方式での受検について、生徒はどのような様子でしたか。お気づきのことについて自由に記入願います。(キーボードでの文字入力の様子、動画等の問題への興味など)

**<文字入力>**

- ・ キーボードでの文字入力は問題なく取り組んでいた
- ・ タイピングの技術が生徒によってまちまちで、苦勞している生徒もいた
- ・ 学科によって入力技術に差がある
- ・ ローマ字を知らずローマ字入力ができない生徒がいた
- ・ キーボードの文字配列がわからない生徒がいた
- ・ タイピングが苦手な生徒は英語のライティングで影響が出ていた
- ・ 学力はあっても文字入力が苦手な生徒にとっては多少不利になるのではないかと
- ・ 予測変換機能が働いて、前に使用した生徒の変換が参照された可能性がある

**<動画問題等>**

- ・ 動画問題やリスニングには違和感なく取り組んでいた
- ・ データ量が多い問題では、問題が数秒流れては止まる、といったことが繰り返し発生し、生徒が集中して取り組めなかった
- ・ 操作ミスで動画を見られない生徒がいた
- ・ 画像が流れないなどのトラブルがあると動揺する生徒がいた

**<その他>**

- ・ 紙によるテストより興味深そうに取り組んでいた
- ・ パソコンの知識がある生徒は指示する前に先に進もうとしたり別の処理をしようとした
- ・ 画面をスクロールしないと文章を読めないことや文字が小さいことが気になった
- ・ スクロールダウンを忘れて問題をやり残した生徒がいた
- ・ 長時間の調査で、途中から眠そうにしていたり集中力が続かなくなったり、目が疲れたりしていた
- ・ 隣の席との間隔が近い
- ・ 同じ問題のため近くの生徒の画面が気になる様子だった

- ⑦ CBT方式での実施について、何かトラブルはありましたか。トラブルがありましたら、その内容をご記入願います。

**<USB関係>**

- ・ USBの不良品率が高く、予備も少ない。対応策がマニュアルに書かれていない
- ・ 使い回すと読み込めなくなったUSBがあった
- ・ USB方式でもマニュアルのQ&Aに書かれていないトラブルが生じた
- ・ USBだったため、特に大きなトラブルはなかった

**<インターネット関係>**

- ・ 通信速度の遅さが影響し、動画データや音声データがあるページの取得がほとんどのパソコンでできなかった
- ・ 動画データや音声データがないページでも読み込めない（タイムアウトで通信エラーになる）ケースがあった
- ・ 一斉にログインしたら固まってしまった

**<パソコンの設定関係>**

- ・ パソコンの設定上の問題で国語、英語のリスニングの音声が出ない生徒がおり、授業の合間での設定切替え作業が必要になった

**<その他>**

- ・ 動画問題、音声問題で再生不良や聞き取りにくいものがあった
- ・ 開始前にパソコンがセッションアウトして開始に手間取った
- ・ 生徒の操作ミス（ログインミス、試験科目でないものを選んでしまう）

- ⑧基礎テストにCBTを導入することについてのお考えをお聞かせください。また、貴校におけるCBTの実施について課題があるとすれば、どのようなことでしょうか。自由にご記入願います。

**【CBTの導入について】**

**<前向きなもの>**

- ・ 基礎テストの趣旨や実施頻度からすれば、CBTでの実施が望ましい
- ・ 実施の課題が解決されれば、採点等の効率が良く有効
- ・ 生徒にとっては新鮮みがあって良い
- ・ 時間の融通が利く
- ・ 将来手軽に受検できるようになれば、複数回受検することでより正確に学力が把握できる

**<課題があるとすもの>**

- ・ パソコン環境の整備が必要
- ・ 安定したCBTシステムが必要
- ・ 不具合が生じた時の対応が心配
- ・ 学校現場での実施を考えるのであれば、公平性・平等性が担保できず、データの信憑性に疑問符がつくのではないか
- ・ 個人のパソコン技術に差があり、本来測ろうとしている知識や活用力以外の部分で得点差が生じる恐れがある
- ・ 問題のバリエーションを増やす必要がある

### 【CBT実施の課題】

- ・ 現時点では動画問題程度しかCBT実施のメリットが感じられないため、誰が見てもCBTの意義がわかるようなシステムを構築してほしい
- ・ PBTと比べて現場の負担が大きい
- ・ インターネット環境の整備が必要（通信速度、接続できるパソコンの確保）
- ・ パソコン環境の整備が必要（台数、パソコン間の距離）
- ・ パソコンのトラブルに対応できる教員が少ない
- ・ 外部監督者による対応も含め、教員に集中する負担を軽減する必要がある
- ・ 日頃から授業等でパソコンに慣れておかないと実力が発揮されにくい
- ・ 複数回に分けて実施する場合、問題が漏洩する可能性がある
- ・ 生徒の操作ミスがあっても続けられる手段が必要
- ・ USBの不具合への対応が必要
- ・ イヤホンを使い回すことは衛生面で問題がある

(5) PBTについて（すべてCBTで実施した学校にあっては、回答頂く必要はありません。）

①PBT方式での実施について、何かトラブルはありましたか。トラブルがありましたら、その内容をご記入願います。

- ・ 問題用紙等の誤り
- ・ 現物を見ないとマニュアルの指示がわかりづらかった
- ・ メモを取ってよい聞き取り問題があったにもかかわらず、メモを取るスペースがなかった
- ・ 種類別に実施する手順を徹底するのに手間取った

②PBT方式での実施について、お気づきの点がありましたら、自由にご記入願います。

- ・ 問題冊子の最後についている参考資料を見ても良いにも関わらず、問題冊子の注意書きや試験監督からの指示事項に挙がっていなかった。知識・技能の「活用」を重視した問題のつくりであっても、生徒に資料の存在をはっきり示さないと、知識・技能を活用する力を問えなくなってしまうのではないか
- ・ 聞き取り問題は、CDでの実施は音量調整やプレーヤーの不調等の不安があるため、放送での実施が望ましい
- ・ CBTに合わせて「前のページを見てはいけない」という指示があったと思われるが、PBTでは徹底しにくい
- ・ 聞き取り問題で「ページをめくってはいけない」と指示があっても、習慣でうっかりめくってしまうような生徒がおり、不正行為扱いとするか迷った

(6) 英語スピーキングテストについて

①英語スピーキングテストの実施にあたり、苦労された点は何でしょうか。自由にご記入願います。

#### <実施・採点など>

- ・ 実施する教員の確保
- ・ 基準に沿って教員が採点すること
- ・ 採点の時間が充分にとりづらかった

#### <問題の内容>

- ・ 対面式では評価をしながら質問をしていくことが求められるため、それがスムーズに行えるような、より明快な作りが必要
- ・ 評価基準が、実際の生徒の応答や質問の実情とマッチしていないものがあった
- ・ 問題がわかりづらい（制約が多く補足質問もわかりにくい、英文に関する設問とイラストに関する設問が無関係、質問が曖昧、イラストを見ただけでは答えとして求められる状況がわかりにくい）

#### <生徒の反応>

- ・ 1年生は「コミュニケーション英語Ⅰ」を実施していないため、生徒に抵抗感もあり対応できていない生徒が多かった
- ・ 試験形式に戸惑う生徒が多かった
- ・ 問題のレベルが難しいと感じた
- ・ スピーキングテストの指示に、本校としては高校1年生ではあまり馴染みのない語が使われていたため、指示自体を理解しにくい生徒が見受けられた

②英語スピーキングテストを実施している際の、受検している生徒の様子はどうでしたか。お気づきの点について自由にご記入願います。

#### <日々の授業との関連>

- ・ 授業でアウトプット活動を充実させてきたが、それでもなおスピーキングテストには慣れが必要だという印象を持った
- ・ 生徒は英語で話すことそのものに大きな抵抗はないものの、一定時間考えないと不安になるという面が見られたため、授業の中で、教科書のテーマや日常生活に関わる話題、時事問題等を使って、習ったことを活用してアウトプットする言語活動をさらに充実させたい
- ・ 即興性を身に付けるため、テンプレートをきっちり身に付けることに加え、クイックレスポンスをする学習活動を繰り返し取り入れる必要を感じた
- ・ 「英語会話」の授業でスピーキングテストを実施している学年では、生徒に抵抗感はなかった

#### <問題の内容>

- ・ 一問目が YES/NO ではなかったため、最初に面食らってしまった印象がある
- ・ 1年生と2年生が同一問題であることには疑問がある
- ・ テストの場面設定が理解しづらいのではないかと思われた
- ・ 真面目に取り組んでいたが、内容を理解できずに辛そうだった。簡単な問題がないと、生徒のモチベーションが維持できない

#### <生徒の様子>

- ・ 英語の問い掛けに対して、生徒によっては何をしたらよいか分からず沈黙してしまう状況があった
- ・ 話し始めるタイミングが分からない生徒が多かった。指示の英語が理解できない生徒もいた
- ・ 外部資格試験を経験していない生徒にとっては、状況や雰囲気に飲まれて力が発揮できない様子だった
- ・ 試験官やペアの相手に日本語で質問したり確認したりする生徒がいた
- ・ 名前以外に話さない生徒がいたため、評価が難しかった

- ・ 真面目に取り組んでいたが、主語・動詞のある文で答えなければ・・・と思う者、単語で答えようとする者、バラバラで、どちらが良いかも判断しづらい

③英語のスピーキングテストの必要性について、どのように考えますか。自由にご記入願います。

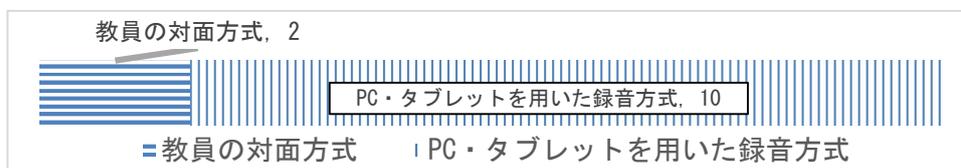
＜必要性を感じる＞

- ・ 授業を英語で展開していく中で、英語でのコミュニケーションが当たり前の状態になってきている。その点を評価する観点からもスピーキングテストの必要がある
- ・ コミュニケーション能力の育成と到達度を知るために必要
- ・ 「授業で4技能を育てる」ためには、必要であるし、重要。基礎テストでスピーキングテストが行われることは、今後の方向性や生徒に付けるべき力を、教員が再確認する一つの機会である
- ・ 授業で4技能を統合的に使う学習活動を促進し、「目標・指導・評価」の一体化を図るためにも、また、「生徒の力」＝「授業の現状」を測るものさしとして活用するためにも、貴重なテストになる
- ・ 環境を整えて行うべき。タブレット型で実施するのであれば評価の公平性は保たれるかも知れないが、環境確保や設定を学校で行うのであればC B T以上に困難ではないか
- ・ スピーキング力を測定する手段として直接的であるので、必要性はある
- ・ 必要だが実施には時間がかかることなど課題がある

＜必要性を感じない＞

- ・ 環境が整わない限り不要
- ・ 必要ない。行うなら普通の授業から根本的に変えなければ意味がない
- ・ 他の技能が身につく、話さなければならぬ状況になるとある程度スピーキング力は付くと思うので、このような形でテストをする必要性はあまりない
- ・ 対面で実施する場合、準備や実施、評価にかかる時間を考えると必要性は感じられない
- ・ ぶれない採点ができそうにない

④今後、基礎テストを導入し、英語のスピーキングテストを実施する場合、貴校においては、教員の対面方式とPCやタブレットを用いた録音方式（採点はテスト実施事業者が行う）のどちらがよいと考えますか。



＜教員の対面方式＞

- ・ 教員の研修にもつながる点で対面方式がよい
- ・ 試験官の研修が必要
- ・ 教員によって評価に差が出てしまうので、明確な評価基準が必要

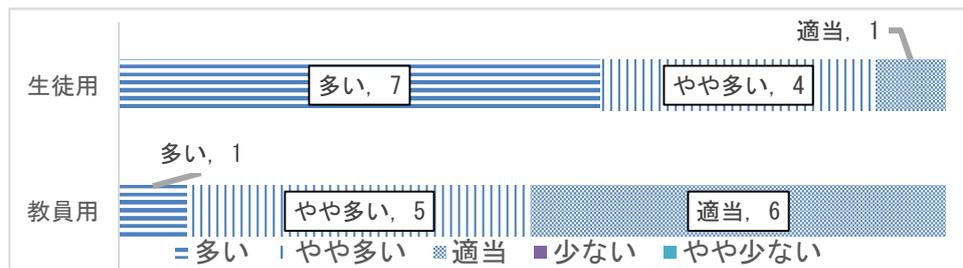
＜PC・タブレットを用いた録音方式＞

- ・ 抽出ではなく全員受検が望ましいと思われ、時間的な制約等を考えると録音方式がよい
- ・ 教員の負担が減る

- ・ 評価基準を統一しやすいのではないか
- ・ 評価の誤差が少なくなり、客観性、妥当性、公平性が保てるのではないか
- ・ 実績のある検定実施団体に実施を任せることはできないか
- ・ 各校に同じ機器が配られることが前提
- ・ 機器の不具合が出る恐れはある
- ・ 録音方式であっても環境の確保に課題はある（他の生徒の音声が気にならないように）

### 3. アンケート調査（学校用・生徒用）について

#### ①アンケートの質問項目の数は適当でしたか。



#### ②アンケート項目について、ご意見がありましたら、ご自由に記入願います。

##### <学校用>

- ・ 学校用は質問項目数が多くても対応は可能
- ・ 学校や教員の取組について、かなり詳しく問われている項目であり、校内で実施する学校独自のアンケート調査等の参考にしたい
- ・ 学校の授業全体について答えるのか各教科の授業について答えるのかわかりにくい部分があった

##### <生徒用>

- ・ 質問項目が多く、時間内に終わらない生徒がいた
- ・ 全て回答できない生徒や集中力が続いていない様子の生徒がおり、正確な結果が得られるのか疑問
- ・ 学習指導要領解説に使用されるような言葉が使用してある質問があり、生徒には理解しにくかったのではないか
- ・ 回答時間が任意となっていたが、事前にある程度目安を示してほしい

### 4. その他

今回の試行調査を受けて、平成 29 年度の試行調査の実施に向けて特に工夫改善すべき点（実施事業者側でも学校側でも）やアイデアなどあれば、自由にご記入願います。

##### <運営上の改善点>

- ・ 情報提供や資料の送付などがぎりぎりでも時間的な余裕がなかった
- ・ 外部評価者に実施状況を見ていただき、実施上の課題等について評価していただくような仕組みを導入できないか
- ・ P B Tの聞き取り問題を各クラスにおいて音声CDによって実施するのは、監督者の対応等厳しいため、学校ごとの一斉放送の方が、実施校も対応しやすい

- ・ 試行調査をするのであれば、調査対象となる生徒に対して調査の目的をもっとはっきりと示すことができるようにしてほしい。自分たちが調査問題に解答することの意義が曖昧な状態では、問題を解答する上での意識に差が出る

#### ＜問題内容の改善点＞

- ・ 基礎学力の定着に課題を抱える生徒が多く在籍する学校においても生徒が意欲を失わずに問題に取り組めるような問題の内容上の工夫をしていただきたい
- ・ 「国語総合」といっても専門高校で指導できる古典は読解が中心となり、文法的な事項はほとんど教えることはできない。古文の問題では、あまりに難しい教材は適宜逐語訳をつけるなど配慮してほしい。漢文も書き下し文の助詞・助動詞を平仮名に直すようなものは出さないでほしい。小説教材が少ない
- ・ スピーキングテストは、生徒への指示と質問がはっきりわかるように強弱をつける等の工夫が必要
- ・ 計算が必要なところが多々あり、P B Tの方が生徒は取り組みやすいのではないか

#### ＜基礎テストの目的等について＞

- ・ 「何のために」「どのように使う」ものなのかを明確に示すことができなければ、現状のままでは、多くの学校が参加するものになるとは思えない。「授業改善の資料」ならば、既存の業者作成アセスメントにも同じようなものがある。全国共通で実施される「テスト」を利用することでどの程度各校の課題が表出されるのかが不明。また、受検を各校の自由意志に任せその結果が各校の主体的な授業改善のみに利用されることを目的とするならば、そもそも、受検しよう／させようというモチベーションにもつながりにくいのではないか
- ・ 1、2年生では、外部模試や学習状況調査を年に複数回実施しており、生徒はテストやアンケート自身に特に抵抗はなかった。その分、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の意義や目的を、生徒や保護者に明確に伝え、十分理解を得たうえで受検させることが不可欠であり、そうする責任が学校にあると感じた
- ・ 学校が実施者である感覚があり、大学入試指導とは大きく異なった認識で生徒を指導していかなければならないのかと戸惑いがある
- ・ 学校内でテスト実施となるのであれば、どうしても通常授業と並行して実施することになり、片手間感の残るテストになるように思う。学年単位で一斉に実施できる環境になることが理想
- ・ テスト結果及びアンケート結果の返却時に、出てきた結果の分析に加えて、それをどのように活用できるか・すべきかといった具体例等のきめ細かな指導助言があると、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」が有益なテストや調査だ、やり甲斐がある…ということが、生徒にも教員にも、よりダイレクトに伝わる

#### ＜その他＞

- ・ 3年目に実践校統一で試行調査をやってみて分析をしてもらいたい
- ・ 次年度に活かすために、全実践校参加型をより強調し、実行性のあるものにする必要がある。実践校を集めての反省・課題の収集を行い、課題の共有を図ってはどうか
- ・ 今回の問題から今後の方向性を知り、自身の授業や考査等の問題作成に反映できるよう、努めたい。また、本テストの活用方法についても、今後校内でさらに検討し、共通理解をしていきたい

(了)